



2015年12月14日  
在日米国商工会議所

## ACCJ、第20回「国会ドアノック」を実施

在日米国商工会議所（ACCJ）は先週、3日間にわたる政策提言活動「国会ドアノック」を終了しました。今回で20回目となる国会ドアノックでは、ジェイ・ポナゼッキ会頭や理事を含む約65名の幹部メンバーが、閣僚を含む約40名の国会議員や日本政府関係者を訪問し、意見交換を行いました。

国会ドアノックは、ACCJが展開する最も大きな政策提言活動の1つであり、今回で20回目となります。ACCJの幹部メンバーは、日本政府とACCJ・米国産業界の代表との貴重な情報交換の場である国会ドアノックにおいて、約20年間にわたり数百名以上の国会議員や日本政府関係者を訪問してきました。

今回の国会ドアノックの主な目的は、日本の長期的な経済成長への貢献や、それに関する議論をさらに促し、また日本政府が追加の経済対策を検討する中、ACCJとしてグローバル・ベストプラクティスに則った実践的で問題解決につながる政策提言をすることでした。

2015年国会ドアノックでは、ACCJが日本の長期的な経済成長に最も効果的に寄与すると考える以下の三項目をテーマに掲げました。

- 環太平洋パートナーシップ（TPP）協定の批准と合意事項の履行
- ウィメノミクスと雇用流動性改革のさらなる進展
- 構造改革の継続的な進展

ACCJは今回、国会ドアノック20回記念の一環として、金融サービス、インターネット・エコノミー、ヘルスケアという、日本の経済成長をけん引することが期待される3分野における産官学のソートリーダーを迎えて、半日のパネルディスカッションを開催しました。

今回の国会ドアノックについてポナゼッキ会頭は次のように述べています。「ACCJの国会ドアノックは、過去20年間にわたり、ACCJと国会・政府関係者との新たな対話の場を確立するのに重要な役割を果たしてきました。また、この取組みは、日本のさらなる経済成長や日米関係の緊密化を目指し、官民双方の距離を縮めることにも多大に貢献してきました。私たちは、これまで20年間にわたり、ACCJのメンバーとの意見交換にご協力いただいた全ての日本政府関係者に心から感謝しています。私たちの日本に対するコミットメントは、これまでになく力強いものです」

ポナゼッキ会頭は続けて「今年の国会ドアノックは、10月のTPP協定交渉の大筋合意により、迅速なTPP協定の批准と合意事項の履行が日本経済にもたらす恩恵について、国会議員のみなさんと意見交換をする歴史的な機会として特に重要でした」と述べました。

国会ドアノックを取りまとめるACCJ政府関係委員会のアーサー・M・ミッチェル委員長は、次のように述べています。「ACCJが築き上げてきた、国会ドアノック20年の歴史を含む日本政府との約70年間の強固な関係は、官民が協力して日本の持続的な経済成長の実現に向けた競争力の強化や生産性の向上を進めていくことに対する意見交流を促してきました。今年の国会ドアノックでは、TPP協定やウィメノミクスを含む雇用流動性、そして日本政府の構造改革といった横断的な主要テーマのさらなる進展に焦点を置きました。国会ドアノックに参加するビジネスリーダーは、特定の業界に関する専門性や知識を持ち、そして日本のビジネス環境の改善に対して継続的にコミットしています」

###

## 1510 J

### –在日米国商工会議所について–

在日米国商工会議所（ACCJ）は、米国企業40社により1948年に設立された日本で最大の外国経済団体です。米国企業の日本における経営者を中心に、現在は約1000社を代表する会員で構成され、東京、名古屋、大阪に事務所を置いています。日米両国政府や経済団体等との協力関係のもと、「日米の経済関係の更なる進展、米国企業および会員活動の支援、そして、日本における国際的なビジネス環境の強化」というミッションの実現に向けた活動を展開しています。また、60以上の業界・分野別委員会を中心に活動を行い、意見書やパブリック・コメント、白書等を通じた政策提言や、政策や経済の動向等について年間500以上のイベントやセミナーを開催するとともに、各種チャリティー等の企業の社会的責任（CSR）活動にも積極的に取り組んでいます。

### 【お問い合わせ】

同件に関するお問い合わせは、在日米国商工会議所 渉外室（電話: 03-3433-6542; メール: [external@accj.or.jp](mailto:external@accj.or.jp)）までお願いいたします。